

県立広島大学の3つの方針（令和8年度～）

◎学士課程全体

全学人材育成目標

主体的に考え、課題解決に向け行動できる実践力、多様性を尊重する国際感覚や豊かなコミュニケーション能力を身に付け、生涯学び続ける自律的な学修者として、地域創生に貢献できる「課題探究型地域創生人材」を育成します。

全学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

県立広島大学は、所定の期間在学して必要とされる単位を修得し、次に掲げる学修成果としての「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性・協働性」を身に付けた学生の卒業を認定し、学士号を授与します。

【知識・技能】

- ・最新の学問的成果に基づいた幅広い知識を学ぶ方法と、その知識を役立てる方法を身に付けている。
- ・幅広い知識・技能を応用して地域課題と向き合い、創造性豊かな学びを実践できる。

【思考力・判断力・表現力】

- ・地域の抱える諸問題を多面的に捉えて自らの考えを組み立て、相手に的確に伝えることができる。
- ・地域の課題に気付き、解決に向けて論理的、創造的に粘り強く思考し、行動を起こすことができる。

【主体性・協働性】

- ・生涯を通じて学び続け、自律して学修する意欲を持ち、実践できる。
- ・多様な人々を深く理解、尊重し、たとえ言語や文化等が異なっても、対話を重ねながら理念を共有し、ともに豊かな地域の創生に貢献できる。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

県立広島大学は、全学共通（基礎基盤・教養）教育プログラムと専門教育プログラムにおいて、幅広い教養と高度な専門性を身に付けるための学修方法・評価方法を定めた科目を、年間2学期制の中で段階的・体系的に配置します。また、必要な単位修得を通じて、資格取得や自らの専門分野を超えた力を養う副専攻プログラムを設けます。

学修成果としての「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性・協働性」を次の課程編成・学修方法によって養い、多様な方法を用いて評価を行います。

【知識・技能】

- ・全学共通（基礎基盤・教養）教育科目を1～4年次に配置し、能動的な学修方法を積極的に授業に導入する。これにより、幅広い知識と実践的な技能が定着する。
- ・すべての開設科目がディプロマ・ポリシー等で掲げる人材育成のどの項目に関連性が深いかを示す。これにより体系的に学ぶことができる。さらに、学んだことより一層高度な次元に及ぶ知識・技能の存在に気付く。

【思考力・判断力・表現力】

- ・全ての学生に卒業論文・卒業研究またはそれに相当する地域課題解決研究を課

す。これにより、学士課程での学びを総合してまとめる力を身に付ける。

- ・対話や討論を重視した参加型学修を導入することにより、論理的、創造的な思考を促し、課題発見・解決力、表現力、行動力を身に付ける。

【主体性・協働性】

- ・専門分野を超えて興味・関心に応じた幅広い科目の履修を可能とし、所属の異なる学生が共に学ぶ場を提供することで、協働性を身に付ける。
- ・地域や海外での活動を含む行動型学修を導入し、主体性や社会貢献への意欲とともに、実践力を身に付ける。

【学修成果の評価】

授業外学修時間を十分確保した上で、コースカタログ・シラバスに配点割合をあらかじめ示した多面的な基準により、厳正な評価を行います。具体的には、例えば「知識・技能」は筆記試験や実技試験、「思考力・判断力・表現力」はレポート提出やプレゼンテーション、「主体性・協働性」は観察評価などのように、到達目標に応じた多様な方法を用いて総合的に評価します。学力の3要素のいずれを測る場面においても、ルーブリックを積極的に導入します。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

県立広島大学は、次に掲げる「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性・協働性」を持ち、地域社会の発展に貢献したいと願う人を求めています。入学者選抜にあたっては、学力検査、小論文、面接等により、多面的に資質や意欲を評価し、決定します。

【知識・技能】

- ・高等学校等での学びを通じた基礎学力を身に付けている。

【思考力・判断力・表現力】

- ・物事を様々な視点から捉え、柔軟に思考できる。
- ・筋道立てて考え、その場にふさわしい表現を用いて伝えることができる。

【主体性・協働性】

- ・自らの能力の向上を目指し、主体的に学ぶことができる。
- ・多様な他者を理解しようと努め、協力して物事を前進させることができる。

◎地域創生学部

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

地域創生学部は、グローバルな視点・立場から、地域社会の持続的な発展に貢献できる人材を育成するという人材育成目標に基づき、学部 zu 所属する学生に共通して求められる次の基準に加えて、それぞれの学科・コースごとに定める基準を満たした学生に学位（国際共生・経営学・健康科学・情報学）を授与します。

【知識・技能】

- ・国際共生、経営、健康科学、情報学にかかわる体系的な専門知識・技能及び幅広い教養を有している。

【思考力・判断力・表現力】

- ・国際共生、経営、健康科学、情報学分野における専門人材として、また地域社会

の持続的な発展にかかわる人材として相応しい高い倫理観と豊かな人間性を備えている。

- ・国際共生、経営、健康科学、情報学にかかわる体系的な専門知識・技能と幅広い教養をもって、確かな自己理解を踏まえた自己実現を図るとともに、他者の理解に努め、人びとの幸福を追求するとともに、さまざまな人や組織と協力して、地域社会の持続的な発展に貢献できる。

【主体性・協働性】

- ・自らが働き、暮らし、活動する身近な地域の問題、あるいは日本や世界の各地で起こっている出来事に対する関心を常に持ち、それらが抱える課題の解決に向け、強い向上心と学修意欲を有している。

- ・国際共生、経営、健康科学、情報学にかかわる専門的職業人として、地域社会の持続的な発展に向け、異なる分野の専門的職業人、地域住民、事業者、行政等、地域内外の構成・関係主体と良好な関係を築き、協働できるコミュニケーション能力を有している。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

地域創生学部の教育課程では、国際共生、経営、健康科学、情報学に関する知識と技能を効率的・段階的かつ体系的に修得できることを目指します。地域創生学部の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を実現するために、大学生としての学びの基礎・基盤を固め、豊かな教養を身につけることを目指す「全学共通教育科目」と、強みとしての専門性を身につける「専門教育科目」を配置します。

学修成果の評価は、中間・期末テスト、レポートやプレゼンテーション、さらには、授業への積極的参加などに対する観察評価によって実施します。また、それぞれの専門領域の特性に応じて、演習・実習科目には到達度なども評価項目に含む科目もあります。複数の評価項目を含む場合は、その配点割合を明示した上で、学修成果を総合的に評価します。なお、各科目の具体的な評価方法はコースカタログに記載し、公開します。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

地域創生学部は、国際共生、経営、健康科学、情報学のいずれかに強い関心を持ち、それらの知識・技能を身に付け、地域社会の持続的な発展に対する将来の貢献を目指す次の学生を求めます。

【知識・技能】

- ・高等学校で学ぶ基礎的知識を身につけ、国際共生、経営、健康、情報について学ぶうえで必要な基礎学力・理解力を持つ人

【思考力・判断力・表現力】

- ・様々な社会事象を複眼的に捉え、それに対する自らの意見や主張、課題解決の道筋を論理的に、かつ熱意をもって説明できる人

【主体性・協働性】

- ・自らが働き、暮らし、活動する身近な地域の問題、あるいは日本や世界の各地で起きている出来事に対する関心を持ち、国際共生、経営、健康、情報の分野から、地域社会の持続的な発展に貢献したいという意欲を持つ人

- ・高い倫理観と豊かな人間性を持ち、他者の理解に努め、また他者と協働して活動を遂行することができるコミュニケーション能力を持つ人

○地域創生学科

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

地域創生学科は、グローバルな視点・立場から、地域社会の持続的な発展に貢献できる人材を育成するという人材育成目標に基づき、次の基準を満たした学生に学位（国際共生・経営学・健康科学）を授与します。

【知識・技能】

- ・国際共生、経営、健康科学にかかわる体系的な専門知識・技能及び幅広い教養を有している。

【思考力・判断力・表現力】

- ・国際共生、経営、健康科学分野における専門人材として、また地域社会の持続的な発展にかかわる人材として相応しい高い倫理観と豊かな人間性を備えている。
- ・国際共生、経営、健康科学にかかわる体系的な専門知識・技能と幅広い教養をもって、確かな自己理解を踏まえた自己実現を図るとともに、他者の理解に努め、人びとの幸福を追求するとともに、さまざまな人や組織と協力して、地域社会の持続的な発展に貢献できる。

【主体性・協働性】

- ・自らが働き、暮らし、活動する身近な地域の問題、あるいは日本や世界の各地で起こっている出来事に対する関心を常に持ち、それらが抱える課題の解決に向け、強い向上心と学修意欲を有している。
- ・国際共生、経営、健康科学にかかわる専門的職業人として、地域社会の持続的な発展に向け、異なる分野の専門的職業人、地域住民、事業者、行政等、地域内外の構成・関係主体と良好な関係を築き、協働できるコミュニケーション能力を有している。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

地域創生学科の教育課程では、国際共生、経営、健康科学に関する知識と技能を効率的・段階的かつ体系的に修得できることを目指します。地域創生学科の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を実現するために、大学生としての学びの基礎・基盤を固め、豊かな教養を身につけることを目指す「全学共通教育科目」と、強みとしての専門性を身につける「専門教育科目」を配置します。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

地域創生学科は、国際共生、経営、健康科学のいずれかに強い関心を持ち、それらの知識・技能を身につけ、地域社会の持続的な発展に対する将来の貢献を目指す次のような学生を求めます。

【知識・技能】

- ・高等学校で学ぶ基礎的知識を身につけ、国際共生、経営、健康について学ぼううえで必要な基礎学力・理解力を持つ人

【思考力・判断力・表現力】

- ・様々な社会事象を複眼的に捉え、それに対する自らの意見や主張を論理的に、かつ熱意をもって説明できる人

【主体性・協働性】

- ・自らが働き、暮らし、活動する身近な地域の問題、あるいは日本や世界の各地で起

きている出来事に対する関心を持ち、国際共生、経営、健康の分野から、地域社会の持続的な発展に貢献したいという意欲を持つ人

・高い倫理観と豊かな人間性を持ち、他者の理解に努め、また他者と協働して活動を遂行することができるコミュニケーション能力を持つ人

○国際共生コース

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

国際共生コースは次の基準を満たした学生に学士（国際共生）を授与します。

【知識・技能】

- ・文化的背景の異なる人々との相互理解・多文化共生を可能とするコミュニケーション能力を有している。
- ・日本や世界の各地で継承・展開されてきた諸文化に関する体系的知識や、文化に関わるさまざまな資料・事象を読み解く能力、客観的データに基づく実証的分析能力を有している。
- ・地域に暮らす人々のウェルビーイング（well-being）に寄与するという観点から地域課題を解決し、地域社会の持続的な発展に向けた企画を立案・実践するための体系的知識を有し、手法を身につけている。

【思考力・判断力・表現力】

- ・日本や世界の各地で継承・展開されてきた言語文化の特質を理解し、多様な他者と適切なコミュニケーションを図ることができる。
- ・日本や世界の各地で継承・展開されてきた社会文化の特質と価値を理解し、その考察の成果を十分に表現することができる。
- ・日本や世界の各地の地域文化に関わる諸問題について、言語、社会、歴史、政治、教育、法、文芸、芸術、思想、心理などの人文学的・社会学的観点から複眼的に考察し、その成果を十分に表現することができる。
- ・地域に暮らす人々のウェルビーイング（well-being）に寄与するという観点から地域課題を解決し、地域社会の持続的な発展につながる企画を立案、提案することができる。

【主体性・協働性】

- ・多様な人々が暮らす地域社会において対話・コミュニケーションの場を創出し、媒介機能を担うことができる。
- ・多様な価値観が尊重され、すべての人がお互いの人権と尊厳を大切にし、支え合い、誰もが生き生きとした幸福な人生を送ることができる共生社会を実現するために、人間・言語・社会のあり方について考え続けるとともに、グローバルな視点・立場から、自らが働き、暮らし、活動する地域社会の諸課題を発見し、その解決に向けて行動することができる。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

(1) 全学共通教育科目

全学共通教育科目においては、中央教育審議会「新しい時代における教養教育の在り方について（答申）」（平成14年2月21日）に示された、グローバル化や科学技術の進展など社会の激しい変化に対応し得る統合された知の基盤となる教養を提供し、学位授与方針に記した学修成果の達成に必要な、大学での「学びの基礎基盤」となる力を身につけます。さらに、本学部の教育理念・目的に基づき、新しい時代

を担う学生が身につけるべき、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・協働性」を伴った「幅広い教養」と、総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するよう適切に科目を配置し、地域課題の発見と解決を目指して行動する力を身につけます。入門段階の学生にも専門知識を分かりやすく興味深い形で提供し、自らの学問を追究する姿勢や生き方を語るなど、学生の学ぶ意欲や目的意識を刺激していくための科目群です。

(2) 専門教育科目

- ・1～2年次に全学科・全コースの領域を横断する「学部共通科目」を設定し、全学科・全コースの専門性を学ぶ上で基礎となる科目を幅広く配置します。

- ・2～3年次に国際共生コースの核となる科目群「コア・ユニット（多文化共生、文化継承）」を配置します。「学部共通科目」を履修し、2学科3コースに関する専門分野の基礎を学んだ上で、学修者の興味・関心に応じて各「コア・ユニット」に配置された専門教育科目を体系的に学び、多文化共生を目指す地域社会の過去・現在・未来について更なる探究を行います。また、選択した「コア・ユニット」とは別に専門教育科目（他学科・他コース科目を含む）を履修させ、主となる専攻の枠を超えて幅広い専門性を学修することで、多様な専門性の組み合わせによる発展・深耕や、幅広い視野と豊かな教養を身につけることを目指します。

- ・3～4年次に「卒業論文」又は「地域課題解決研究」を必修として配置します。これまで学修した探究課題について適切な方法で考察し、論文にまとめることで、その結果を他者に効果的に伝える能力を身に付けます。

- ・高度な外国語学修や登録日本語教員、学芸員に関する学修を行うためのカリキュラムを用意します。

(3) その他科目（卒業要件外）

教育職員免許状の取得を希望する学生に対して、中学校教諭一種免許状（国語、英語）・高等学校教諭一種免許状（国語、英語）取得に係る「教職関連科目」を配置します。

(4) それぞれの科目における学修成果の評価

学修成果の評価は、中間・期末テスト、レポートやプレゼンテーション、さらには、授業への積極的参加などに対する観察評価によって実施します。また、それぞれの専門領域の特性に応じて、演習・実習科目には到達度なども評価項目に含む科目もあります。複数の評価項目を含む場合は、その配点割合を明示した上で、学修成果を総合的に評価します。なお、各科目の具体的な評価方法はコースカタログに記載し、公開します。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

地域創生学部・地域創生学科のアドミッション・ポリシーを踏まえ、国際共生コースは、日本や世界の各地で継承・展開されてきた各々の言語文化・社会文化及び多文化共生に関する専門的知識と技能の修得を目指す、次のような学生を求めます。

【知識・技能】

- ・日本や世界の各地で継承・展開されてきた言語文化及び社会文化に強い関心を持ち、それらについての基礎的な知識・技能を身につけている人
- ・自らが働き、暮らし、活動する身近な地域の問題、あるいは日本や世界の各地で起きている出来事に対する関心を持ち、それらについての基礎的な知識・技能をバランスよく身につけている人

【思考力・判断力・表現力】

- ・基礎的な学力を身につけた上で、自らが働き、暮らし、活動する身近な地域の問題、あるいは日本や世界の各地の言語、社会、歴史、政治、教育、法、文芸、芸術、思想、

心理などの人文的・社会科学的事象を複数の視点から相対的に捉え、自身の考えを適切に表現できる能力を身につけている人

【主体性・協働性】

・基礎的な学力を基盤として、主体的に探究と考察を深め、相互に協力して学修を進めていこうとする意欲を持っている人

入学者選抜にあたっては、学力検査、小論文、質疑応答型あるいはプレゼンテーション型の面接等により、多面的に資質や意欲を評価し、上記の能力を備えた受験生を各種選抜試験を通して入学させます。

○経営コース

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

経営コースは次の基準を満たした学生に学士（経営学）の学位を授与します。

【知識・技能】

- ・組織とそれを取り巻く環境との相互依存関係の本質を理解できるような経営学に関する専門的知識、及びその土台となる社会科学分野に関する専門的知識を有している。
- ・組織のマネジメントに必要な専門的知識、及びその土台となる社会科学分野に関する専門的知識を有している。

【思考力・判断力・表現力】

- ・経営に関する問題を把握し、解決するための意思決定の土台となる思考力と判断力を有している。
- ・経営に関する自分の考えを他者にもうまく伝えることができる表現力を有している。

【主体性・協働性】

- ・企業や行政、NPOなどの組織が抱える諸課題の解決のために他者と協働し、主体性を持って取り組むことができる。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

(1) 全学共通教育科目

全学共通教育科目においては、中央教育審議会「新しい時代における教養教育の在り方について（答申）」（平成14年2月21日）に示された、グローバル化や科学技術の進展など社会の激しい変化に対応し得る統合された知の基盤となる教養を提供し、学位授与方針に記した学修成果の達成に必要な、大学での「学びの基礎基盤」となる力を身につけます。さらに、本学部教育理念・目的に基づき、新しい時代を担う学生が身につけるべき、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・協働性」を伴った「幅広い教養」と、総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するよう適切に科目を配置し、地域課題の発見と解決を目指して行動する力を身につけます。入門段階の学生にも専門知識を分かりやすく興味深い形で提供し、自らの学問を追究する姿勢や生き方を語るなど、学生の学ぶ意欲や目的意識を刺激していくための科目群です。

(2) 専門教育科目

- ・1～2年次に学部の全学科・全コースの領域を横断する「学部共通科目」を設定し、全学科・コースの専門性を学ぶ上で基礎となる科目を幅広く配置します。多様な専門

分野の基礎を学ぶことで、広い視野と多角的な視点を身につけることを目指します。

- ・2～3年次に経営コースの核となる科目群（経営戦略・マーケティング、会計・ファイナンス、政策科学）を配置します。学修者は自らの興味・関心や将来の進路・目標に応じて各専門教育科目を体系的に学び、経営学への理解を深めていきます。

- ・3～4年次に「経営学専門演習」又は「地域課題解決研究」を選択必修科目

目として配置し、その中で経営学学修の集大成として4年次での「卒業論文」の提出を必修とします。これまで学修した課題探究について適切な方法で考察し、論文にまとめることで、その結果を他者に論理的かつ明確に伝えることができるようになります。

(3) それぞれの科目における学修成果の評価

学修成果の評価は、中間・期末テスト、レポートやプレゼンテーション、さらには、授業への積極的参加などに対する観察評価によって実施します。また、それぞれの専門領域の特性に応じて、演習・実習科目には到達度なども評価項目に含む科目もあります。複数の評価項目を含む場合は、その配点割合を明示した上で、学修成果を総合的に評価します。なお、各科目の具体的な評価方法はコースカタログに記載し、公開します。

入学者受入れの方針（アドミSSION・ポリシー）

地域創生学部・地域創生学科のアドミSSION・ポリシーを踏まえ、経営コースは、経営学の専門的知識と技能の修得を目指す、次のような学生を求めます。

【知識・技能】

- ・高等学校で学ぶ英語、国語、地理歴史・公民、数学、理科ないし情報に関して十分な基礎学力を持つ人

【思考力・判断力・表現力】

- ・ものごとを多角的にとらえ、論理的に思考し、客観的事実に基づいて適切に判断することができる人
- ・自分の考えを的確に表現し、他者にわかりやすく伝えることができる人

【主体性・協働性】

- ・基礎的な学力を基盤として、主体的に考察を深め、相互に協力して学修を進めていこうとする意欲を持つ人
- ・企業や組織のしくみ及び活動を理解することに意欲や関心を持つ人
- ・経営戦略・マーケティング、会計・ファイナンスおよび政策科学の専門知識を主体的・協働的に学修し、それを活かして社会・地域に貢献し、活動することに関心のあ
- る人
- ・経営戦略・マーケティング、会計・ファイナンスおよび政策科学の専門知識を主体的・協働的に学修し、それを活かした職業につきたいと思っている人

入学者選抜にあたっては、学力検査、小論文、質疑応答型あるいはプレゼンテーション型の面接等により、多面的に資質や意欲を評価し、上記の能力を備えた受験生を各種選抜試験を通して入学させます。

○健康科学コース

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

健康科学コースでは次の基準を満たした学生に学士（健康科学）を授与します。

【知識・技能】

- ・健康の維持・増進並びに疾病予防を図るために必要な「生体・運動」「食品・栄養」「健康管理」に関わる専門的知識を身に付けている。
- ・健康の維持・増進並びに疾病予防を図るための基礎レベルの科学的調査・実験をすることができる。

【思考力・判断力・表現力】

- ・健康の維持・増進並びに疾病予防に関する新たな課題を発見し、解決に向けて学究的に取り組み、自分の考えをまとめることができる。
- ・健康の維持・増進並びに疾病予防にかかわる課題について、「生体・運動」「食品・栄養」「健康管理」の観点から論理的に考察し、解決するための判断力を有している。
- ・「生体・運動」「食品・栄養」「健康管理」に関する知見及び自分の考えを、わかりやすく論理的に表現することができる。

【主体性・協働性】

- ・健康の維持・増進並びに疾病予防を図るために、「生体・運動」「食品・栄養」「健康管理」を基盤とした取り組みを主体的に企画し、地域社会や地域の人々と協働して実践することができる。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

(1) 全学共通教育科目

全学共通教育科目においては、中央教育審議会「新しい時代における教養教育の在り方について（答申）」（平成14年2月21日）に示された、グローバル化や科学技術の進展など社会の激しい変化に対応し得る統合された知の基盤となる教養を提供し、学位授与方針に記した学修成果の達成に必要な、大学での「学びの基礎基盤」となる力を身につけます。さらに、本学部の教育理念・目的に基づき、新しい時代を担う学生が身につけるべき、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・協働性」を伴った「幅広い教養」と、総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するよう適切に科目を配置し、地域課題の発見と解決を目指して行動する力を身につけます。入門段階の学生にも専門知識を分かりやすく興味深い形で提供し、自らの学問を追究する姿勢や生き方を語るなど、学生の学ぶ意欲や目的意識を刺激していくための科目群です。

(2) 専門教育科目

- ・1～3年次に全学科・全コースの領域を横断する「学部共通科目」を設定し、全学科・全コースの専門性を学ぶ上で基礎となる科目を幅広く配置します。
- ・1～4年次に健康科学コースの核となる科目群「コア・ユニット」（生体・運動、食品・栄養、健康管理）を配置します。「学部共通科目」を履修し、全学科・全コースに関する専門分野の基礎を学んだ上で、3つの「コア・ユニット」に配置された専門教育科目を体系的に学びます。特に、実験・実習科目では、健康科学に関する専門的知識に基づいて科学的調査・実験方法を行うことができる基盤を修得します。
- ・3年次に「臨地実習」を選択必修として配置します。実習先（保健所・同センター、総合病院、小中学校）は自らのキャリアデザインに合わせて選択し、現場から必要と

されるスキルを体得させることで、管理栄養士としての業務に必要な資質の伸長と学修の深化を促し、社会的な資質や行動力を身につけることができますようにします。

・3～4年次に「卒業論文」または「地域課題解決研究」を選択必修として配置します。これまで学修した課題探究の内容及び方法について適切な方法で考察し、主体的に論文にまとめます。4年次には専門領域での学会への参加や学内外で研究者との交流によって、研究成果を他者に効果的に伝えることができますようにします。

(3) その他科目（卒業要件外）

本学科健康科学コースでは、教育職員免許状の取得を希望する学生に対して、栄養教諭一種免許状取得に係る「教職関連科目」を配置します。

(4) それぞれの科目における学修成果の評価

学修成果の評価は、中間・期末テスト、レポートやプレゼンテーション、さらには、授業への積極的参加などに対する観察評価によって実施します。また、それぞれの専門領域の特性に応じて、演習・実習科目には到達度なども評価項目に含む科目もあります。複数の評価項目を含む場合は、その配点割合を明示した上で、学修成果を総合的に評価します。なお、各科目の具体的な評価方法はコースカタログに記載し、公開します。

入学者受入れの方針（アドミSSION・ポリシー）

地域創生学部・地域創生学科のアドミSSION・ポリシーを踏まえ、健康科学コースは、健康科学の専門的知識と技能の修得を目指す、次のような学生を求めます。

【求める学生像】

- ・理科学実験が好きで探究心旺盛な人
- ・「生体（人体の仕組み）・運動」と健康とのかかわりに興味を持っている人
- ・「食品・栄養」と健康とのかかわりに興味を持っている人
- ・「健康管理」に関する専門性を身につけ、地域社会や地域の人々と協働したいと考えている人
- ・管理栄養士などの健康の維持・増進と疾病予防にかかわる仕事に強い熱意を持っている人
- ・栄養教諭などの児童・生徒への食育にかかわる仕事に強い熱意を持っている人
- ・「生体・運動」「食品・栄養」「健康管理」に関する研究者・技術者・教育者を目指している人

【知識・技能】

- ・高等学校で学ぶ国語、地理歴史・公民、数学、理科、外国語、情報の基礎学力を持つ人

【思考力・判断力・表現力】

- ・論理的に思考し、様々な観点から多面的に考察し、自分の考えをまとめることができる人
- ・健康科学に関する自分の考えを、日本語でわかりやすく表現することができる人

【主体性・協働性】

- ・「生体・運動」「食品・栄養」「健康管理」のかかわりに興味を持ち、健康の維持・増進について主体的に地域社会に貢献する意欲がある人
- ・健康の維持・増進並びに疾病予防に関する課題に対して、他者と協働して解決する意欲がある人

入学者選抜にあたっては、学力検査、小論文、質疑応答型あるいはプレゼンテーション型の面接等により、多面的に資質や意欲を評価し、上記の能力を備えた受験生を、各

種選抜試験を通して入学させます。

○情報学科

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

情報学科は、複合的な要因による多様な課題を的確に把握するために必要な幅広い教養を修得するとともに、数学を基礎として、地域産業・地域社会を持続的に発展させるために不可欠な、数理・データサイエンスやIoT・AIを含む最新の情報技術を学び、数理的思考力を基盤とするデータ分析や情報システムの開発・運用管理などのデジタル技術の専門家として企業や社会に貢献できるデータサイエンティストやITエンジニアの育成を目的とする。

情報学科では次の基準を満たした学生に学士（情報学）の学位を授与する。

【知識・技能】

- ・数学を基礎として、地域産業や地域社会を持続的に発展させるためのデータ分析に不可欠な数理・データサイエンスに関する専門的知識を有している。
- ・組織におけるデジタル技術の活用に必要な情報システムの企画・設計開発・運用管理を行えるような数理・データサイエンスやIoT・AIをはじめとする情報技術に関する専門的知識を有している。
- ・産業界におけるデジタル技術を活用した情報システムの開発に必要な専門的知識や技能を有している。

【思考力・判断力・表現力】

- ・地域産業や地域社会を持続的に発展させるためのデータサイエンティストとしてデータ分析が実行できる。
- ・組織の経営戦略に基づき、デジタル技術を活用した情報システムの企画や設計開発・運用管理ができる。
- ・産業界や社会における組織体の要件を理解し、情報処理技術者としてデジタル技術を活用した情報システムを開発できる。

【主体性・協働性】

- ・企業や行政、NPOなどの組織が抱える諸課題の解決のために他者と協働し、数理・データサイエンスやIoT・AIをはじめとするデジタル技術の専門家として主体性を持って取り組むことができる。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

(1) 全学共通教育科目

全学共通教育科目においては、中央教育審議会「新しい時代における教養教育の在り方について（答申）」（平成14年2月21日）に示された、グローバル化や科学技術の進展など社会の激しい変化に対応し得る統合された知の基盤となる教養を提供し、学位授与方針に記した学修成果の達成に必要な、大学での「学びの基礎基盤」となる力を身につけます。さらに、本学部の教育理念・目的に基づき、新しい時代を担う学生が身につけるべき、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・協働性」を伴った「幅広い教養」と、総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するよう適切に科目を配置し、地域課題の発見と解決を目指して行動する力を身につけます。入門段階の学生にも専門知識を分かりやすく興味深い形で提供し、自らの学問を追究する姿勢や生き方を語るなど、学生の学ぶ意欲や目的意識を刺激していくための科目群です。

(2) 専門教育科目

- ・ 1～2年次に全学科・全コースの領域を横断する「学部共通科目」を設定し、学部の全学科・コースの専門性を学ぶ上で基礎となる科目を幅広く配置します。
- ・ 2～3年次に情報学科の核となる科目群（数理系・情報系）を配置します。「学部共通科目」を履修し、学部の全学科・コースに関する専門分野の基礎を学んだ上で、学修者の興味・関心に応じて各科目群に配置された専門教育科目を体系的に学び、情報学の応用について幅広い視野で俯瞰的かつ客観的に考えることができる判断力・思考力を育成します。
- ・ 3～4年次に「卒業論文」又は「地域課題解決研究」を選択必修として配置します。これまで学修した課題探究について適切な方法で考察し、論文にまとめることで、その結果を他者に効果的に伝える力を身に付けます。

(3) その他科目（卒業要件外）

情報学科では、教育職員免許状の取得を希望する学生に対して、中学校教諭一種免許状（数学）、高等学校教育一種免許状（数学・情報）の取得に係る「教職関連科目」を配置します。※設置認可申請中

(4) それぞれの科目における学修成果の評価

学修成果の評価は、中間・期末テスト、レポートやプレゼンテーション、さらには、授業への積極的参加などに対する観察評価によって実施します。また、それぞれの専門領域の特性に応じて、演習・実習科目には到達度なども評価項目に含む科目もあります。複数の評価項目を含む場合は、その配点割合を明示した上で、学修成果を総合的に評価します。なお、各科目の具体的な評価方法はコースカタログに記載し、公開します。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

地域創生学部のアドミッション・ポリシーを踏まえ、情報学科は、情報学の専門的知識と技能の修得を目指す、次のような学生を求める。

【知識・技能】

- ・ 高等学校で英語、国語、地理歴史・公民、数学、理科、情報に関して十分な基礎学力を持つ人

【思考力・判断力・表現力】

- ・ 課題解決に際して、数学や情報の基礎的な考え方にに基づき、課題解決の道筋を他者に論理的に説明できる人
- ・ データの分析や処理に際して、対象となる物事の動作や順序を正しく認識し、プログラミング的思考により目的達成の効率的な手段を考えられる人

【主体性・協働性】

- ・ 基礎的な学力を基盤として、主体的に考察を深め、相互に協力して学修を進めていこうとする意欲を持っている人
- ・ 企業や組織のしくみや活動に意欲や関心を持つ人
- ・ コンピュータの仕組み、情報ネットワーク、情報セキュリティなどの理解や、データの分析・処理などによる新たな価値の創出に意欲や関心を持つ人

入学者選抜にあたっては、学力検査、小論文、質疑応答型あるいはプレゼンテーション型の面接等により、多面的に資質や意欲を評価し、上記の能力を備えた受験生を各種選抜試験を通して入学させます。

◎生物資源科学部

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

農・食・生命・環境が関わる地域社会から地球規模に至る幅広い課題に関心を持ち、実践的・先端的知識と技能を活用して、周囲と協働しながら課題解決を積み重ね、新しい社会的、文化的、産業的な価値を生み出し、分野横断的に持続可能な社会の構築に貢献する「課題探究型地域創生人材」としての能力を身に付けた学生に学士の学位を授与します。

【具体的人材像】

- 「新しい資源の発見・開発と価値の創出」に貢献できる人材
- 「豊かで持続可能な社会の創出」に貢献できる人材
- 「科学と実践による地域活性化」に貢献できる人材

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

地域資源開発学科と生命環境学科（生命科学コースと環境科学コース）、それぞれの特徴を生かしながら、社会に貢献するために必要となる知識と技能を効率的に修得できるように、共通部分となる理系分野の基礎的な内容から、地域資源開発学科と生命環境学科、それぞれの専門分野の専門的・実践的な内容まで段階的に学修できるように体系的なカリキュラムを組んでいます。さらに、両学科が教育および研究で密接に連携することで、より幅広い知識と技能を修得できるようにしています。

学部内の共通カリキュラムおよび学科間の垣根を越えた履修プログラムの配置により、地域社会の問題を探究するローカルな視点と地球規模の問題を探究するグローバルな視点を併せ持ち、農・食・生命・環境の分野で学んだ専門知識と技能（技術）を活用し、食料生産や食の機能性・安全性の評価、健康の維持・促進、良好な生存環境の創出、地球環境の保全や修復などの方面で、他者と協働しながら新しい価値を生み出し、分野横断的に持続可能な社会の構築に貢献する「課題探究型地域創生人材」を育成することを目指しています。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

農・食・生命・環境のいずれかの分野に強い関心を持ち、生物生産技術の開発による安定した食料生産、食の機能性・安全性の評価や生命機能の解明・生物資源の開発を通じた健康の維持・促進、良好な生存環境の創出、地球環境の保全や修復などの領域において、課題解決に必要な実践的・先端的知識と技能を身に付け、将来、新しい社会的、文化的、産業的な価値を生み出し、持続可能な社会の構築に貢献できる「課題探究型地域創生人材」として活躍したいという熱意と行動力を持った人材を求めます。

○地域資源開発学科

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

人々が将来にわたり安定した生活を維持するために不可欠な「農」「食」の分野において、6次産業化や農商工連携による地域活性化の方法、実践的な技術や知識と経営の専門知識を身に付け、文化的背景や伝統知を考慮しながら科学的根拠に基づき思考・探究・判断する力、地域創生のための情報発信力・実践力・マネジメント力・関係する人材・事象と協働しながら解決する力により地域を活性化し地域社会を牽引する「課題探究型地域創生人材」としての能力を身に付けた学生に学士（地域資源開発学）を授与します。

【具体的人材像】

- 「地域産業の再生と新規産業の創設」に貢献できる人材
- 「未来の農業（スマート農業）」を探究できる人材
- 「持続可能な農と食のマネジメント」を探究できる人材

【知識・技能】

- ・「農」と「食」の生産・加工に関して、伝統的な方法から従来の方法、未来を見据えた 最新技術及び国際的な知識を身に付けている。
- ・「農」と「食」の分野に関する化学・物理学・生物学の科学的知識を有し、開発・分析・評価を行うために必要な技能や知識を身に付けている。
- ・「農」と「食」の6次産業化や地域資源のマネジメントに関する知識を身に付けている。
- ・里山の保全や修復、分析に関する技能や知識を身に付けている。

【思考力・判断力・表現力】

- ・「農」と「食」、地域資源に関する実践的知識と生命科学や環境科学の基礎知識を総合し、柔軟に活用することができる。
- ・農業や食品及びそれらにかかわる経営マネジメントの課題を発見し、周囲と協働しながら、新しい手法の修得や開発により解決に導く能力を身に付けている。
- ・専門領域のデータや専門文書、理化学機器分析を理解することができ、基本的な専門用語を用いて知識伝達・情報共有することができる。

【主体性・協働性】

- ・「農」と「食」、地域資源を総合的に活用する姿勢を身に付け、主体的に対応し、地域創生を担うことができる。
- ・物事を科学的根拠に基づき判断することができ、深くかつ多面的に洞察する態度や独創性を重んじる姿勢を身に付けている。
- ・個人や共同体、地域との良好なコミュニケーション（情報発信、プレゼンテーション、相互理解）を行うことができる。
- ・主体的かつ継続的に学ぶことの重要性を理解している。
- ・新たな手法の修得や開発に対して積極的に取り組むことができる。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

1 専門教育科目の編成方針

地域資源開発学科では、「農」・「食」・「経営マネジメント」の3分野を中心とした地域資源開発学の学士養成に必要な授業科目を必修科目として配置し、基礎的な科目から実践的な技術修得を踏まえて学修する構成としています。

(1) 学部共通科目

高等学校で履修した主要理数系科目を、大学専門教育を受ける上での基盤として捉え、基礎的知識、技能を身に付けるための生物資源科学部共通の科目を配当します。

また、「農」・「食」・「経営マネジメント」の3分野の基礎的な資質を養い、実践にも不可欠なフィールド科学実習Ⅰを1年次から配置しています。

(2) 専門基礎科目

専門基礎科目の基盤の上に展開される幅広い知識を身に付けるための科目群であり、主に2年次に配当します。生物資源科学部共通の生物・化学関連の専門科目の他、「農」・「食」・「経営マネジメント」の3分野をそれぞれ「農業・生産開発系」・「食品・分析開発系」・「農食・マネジメント系」の各学系の基礎科目や基礎地域資源科学実験やフィールド科学実習Ⅱを配置しています。

また、1・2年次を対象に国際異文化農業体験研修科目を配置し、グローバルな視

点も身に付けさせます。

(3) 専門基幹科目

学部共通科目、専門基礎科目を学んだ上で地域資源開発学に関する専門的な知識と技能を身に付けるための科目群であり、主として3年次に配当します。

「農」・「食」・「経営マネジメント」の3分野の各学系を中心とした専門基幹科目と共に地域資源開発学科内の異なる学系の科目も広く取得できるように配置し、地域資源科学の学修を深めます。

(4) 卒業論文、地域課題解決研究

3、4年次の2年間に配当される必修科目です。地域資源開発科学に関する実践的な研究課題もしくは先端技術を活用した研究課題に取り組み、研究の立案、実施、取りまとめを行って論文を作成するとともに、発表会で決められた時間内で発表して質疑応答を受け、ディスカッションやプレゼンテーションの技能を身に付けます。また、論文作成により、地域資源開発学に関するより深い理解、知識や洞察力、専門的技術などの実践力を身に付けます。

※副専攻プログラム

地域資源開発学科では、副専攻プログラムの配置により、所定の単位を修得することで副専攻プログラムの修了認定を行います。高等学校教諭免許状（農業）を取得できる科目を配置しています。

2 専門教育科目の特色

「農」・「食」・「経営マネジメント」の3分野の基礎から応用にいたるまでの幅広い知識を養いつつ、地域資源開発学に対する関心をさらに深め、地域資源科学に関連する諸問題の発見や解決へと導くための学力と技術、そして思考能力・情報発信能力および実践力を育成するために以下のような科目群を配置しています。これらのカリキュラム履修を通して、「農」・「食」・「経営マネジメント」分野などの人々の生活に関わる地域産業の創成分野において活躍するための基本的な素養を身に付けることができます。

- (1) 生物学・化学・情報科学など、「農」・「食」・「経営マネジメント」分野の地域資源科学に関する基礎を学修するだけでなく、実験やフィールド科学実習Ⅰを通じた基礎技術の習得を1年次から行うことで、専門知識と技能を基礎から実践的に体系的に身に付けることができます。

生命環境科学科との連携をふまえた共通科目の設定を行い、他学科との関わり合いを学ぶことで、より幅広い視野を持った人材育成を目指すと共に、客観的・俯瞰的・分野横断的な知識や思考の修得を可能としています。

- (2) 「農業・生産開発系」・「食品・分析開発系」・「農食・マネジメント系」各学系の専門導入のための基礎科目群では、3つの学系を設けることで主体とする専門分野の知識や実践力が身に付きます。「農業・生産開発系」・「食品・分析開発系」・「農食・マネジメント系」各学系に特色のある専門性の高い「専門科目群」を設けることで、基礎から応用に至るまでの一貫性を持った体系的な教育を行います。また、地域資源開発学科内の異なる学系の科目も広く取得できるように配置し、地域資源開発学の学修を深めます。さらに、3・4年次の2年間で行う卒業論文研究では、一人ひとりが地域資源開発学分野に関する様々な課題について、より高度な専門的知識や技能を実践的に身に付けながら、きめ細かい指導の下で研究を実施し、「農」「食」により地域を活性化し、地域社会を牽引する「課題探究型地域創生人材」としての素養を身に付けています。

3 学修成果の評価

授業外学修時間を十分確保した上で、コースカタログ・シラバスやルーブリックに配点割合を予め示した多面的な基準により、厳正な評価を行います。具体的には、

例えば「知識・技能」は筆記試験や実技試験、「思考力・判断力・表現力」はレポート提出やプレゼンテーション、「主体性・協働性」は観察評価などのように、到達目標に応じた多様な方法を用いて総合的に評価します。学力の3要素のいずれを測る場面においても、ルーブリックを積極的に導入します。

学修成果については、コースカタログ・シラバスに提示した配点割合に従い、ディプロマ・ポリシーに示した「知識・技能」における専門に必要な理論と技能、「思考力・判断力・表現力」における情報収集、結果の分析と考察及び情報発信、「主体性・協働性」における課題解決に取り組む姿勢などについて、各科目において判断基準を設定した上で厳正に評価します。各科目における評価方法は、学期中や学期末に行う筆記試験、小テスト、課題や実験のレポート、実技試験、プレゼンテーション、能動的な学修における貢献度・主体性などを組み合わせることにより、多面的な判断基準に基づいて学修の到達度を評価します。

4 学修環境

上記のような学修成果を生み出すため、以下の学修環境を提供します。

(1) 【知識・技能】の修得について

「農」・「食」・「経営マネジメント」に関する専門知識と実践技術を身に付けるために必要な基礎知識を修得するために学部共通の専門基礎科目を配置し、地域資源科学に関する基礎的な共通知識を身に付けるために学科基礎科目を配置しています。また、地域課題解決の技能や実践力を修得するためにフィールド科学実習Ⅰ・Ⅱや基礎地域資源科学実験などを必修科目として配置しています。

(2) 【思考力・判断力・表現力】の修得について

必修の卒業論文もしくは地域課題解決研究の実施期間を2年間としており、最終評価のための卒業論文発表会を通して自らの考えを論述し議論する機会を提供しています。さらに、きめ細やかな研究指導を行うために1教員が担当する1学年の学生数を4名程度になるようにしています。

(3) 【主体性・協働性】の修得について

地域資源科学に関する新しい技術やシステムの修得や創出に積極的かつ主体的に取り組む態度を身に付けるために、学部必修と学科必修の実験・実習科目では、少人数のグループで実験・実習操作が行えるように実験実習設備の充実を図っています。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

1 基本理念

「農」や「食」の分野において、専門的かつ実践的な知識・技術と科学的根拠に基づく情報発信力・実践力・マネジメント力を有し、地域の課題解決に貢献できる技術者及び実践的研究者として活躍したいと考えている人、他者と協働しながら主体的に活動し、課題解決策を発信していく熱意と行動力を持った人材を求めます。

2 求める学生像

- ・未来の農業や食品加工に強い関心を持ち、専門的知識・技術を用いて産業の創設や6次産業化により地域の発展に貢献する意欲がある人
- ・里山の利活用や保全に関わる分野で活躍したいと考えている人
- ・伝統的知識と科学的知識の双方を吸収・癒合させ、地域に還元することで地域の課題解決に貢献する技術者・実践的研究者を目指す人
- ・実験や実践的なフィールド研究によって自ら課題を解決し、新しい発見を目指す知的探究が好きな人
- ・ICTやAI、ロボット技術を活用した農業や農産物、食品に関わる経営マネジメントに興味があり、探究する意欲がある人

- ・「農」・「食」の分野における専門家を目指し、大学院に進学してより深い知識や高い技能を身に付け、グローバルに活躍したい人
- ・柔軟な思考と実践力を身に付け、地域社会が抱える多様な問題に対し粘り強く果敢に立ち向かい解決しようとする人

3 入学者選抜の基本方針

入学者選抜にあたっては、学力検査、小論文、面接等により、多面的に資質や意欲を評価し、次の能力を備えた受験生を各種選抜試験を通して入学させます。

【知識・技能】

- ・「農」や「食」の分野において専門的かつ実践的な知識技能と科学的根拠に基づく情報発信力、マネジメント力を有し、地域の課題解決に貢献したい人、特に実践的な技術者や研究者として活躍したいと考えている人
- ・未来につながる持続的農業システムや食品加工に強い関心を持ち、里山や各地域のもつ伝統的なもののよさを踏まえた科学的な専門的知識、技能を用いて新産業の創設や6次産業化により地域の発展に貢献する意欲がある人
- ・「農」や「食」の分野における専門家を目指し、大学院に進学してより深い知識や高い技術を身に付け、グローバルに活躍したい人

【思考力・判断力・表現力】

- ・実験や実践的なフィールド研究を踏まえ、伝統的知識と科学的知識を合わせて自ら思考判断して地域の持つ課題を解決する人
- ・農業、食品加工、経営マネジメントへのICT、AI、ロボットなど新しい技術の活用や発見を目指す知的探究をしつつ、修得したものをその表現力をもって課題解決策を発信して地域に還元し、地域貢献を考える意欲がある人

【主体性・協働性】

- ・柔軟な思考と実践力を身に付け、地域社会が抱える多様な課題に対し、他者と協働しながら自ら主体的に活動し、地域の課題解決策を発信していく熱意と行動力を持った人

○生命環境学科

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

「人々の生存」に関わる分野、例えば生命機能の解明、生物資源の開発によるクオリティ・オブ・ライフ（生活の質）の向上、持続可能な社会の構築、良好な生存環境の創出などにおいて、生命科学と環境科学に関する専門的知識、新たな概念や技能を活用・探究でき、他者と協働しながら「課題探究型地域創生人材」としての能力を身に付けた学生に学士（生命環境科学）を授与します。

【具体的人材像】

- 「生命の可能性や良好な生存環境」を探究できる人材
- 「持続可能な発展のための科学」を探究できる人材
- 「地域の活性化に役立つ科学」を探究できる人材

【知識・技能】

- ・生命科学、環境科学に関する基礎学力を土台に関連する幅広い専門知識や先端技術を身に付けている。
- ・生命科学や環境科学に関わる専門知識や技術が社会や地域でどのように活用されているかを理解し、その知識や技術を課題解決に役立てる方法を身に付けている。

【思考力・判断力・表現力】

- ・生命科学、環境科学の基礎知識を柔軟に活用して解決すべき課題を分析することができる。
- ・専門領域のデータや専門文書を理解することができ、基本的な専門用語を用いて知識伝達・情報共有することができる。
- ・客観的・俯瞰的・分野横断的な視点を持ち、課題に対して柔軟な思考ができる。
- ・他者の意見を尊重しつつ、解決策を提案できる。
- ・科学的・技術的・生命倫理的・社会制度的な見地から正しい知識を社会にわかりやすく発信できる。

【主体性・協働性】

- ・生命現象、生存環境に関する事象を科学的根拠に基づき判断することができ、深くかつ多面的に洞察する態度や独創性を重んじる姿勢を身に付けている。
- ・地域や社会、他者と協働しながら主体的に課題解決に取り組み、問題解決にあたることができる。
- ・主体的かつ継続的に学ぶことの重要性を理解している。
- ・新たな手法の修得や開発に対して積極的に取り組むことができる。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

1 専門教育科目の編成方針

生命環境学科では、生命科学と環境科学の両面から社会に貢献するために必要となる知識と技能を効率的に修得できるように、共通部分となる理系分野の基礎的な内容から、生命科学と環境科学のそれぞれの専門分野の専門的・実践的な内容まで、段階的に学修できるように体系的なカリキュラムを組んでいます。さらに、両コースが密接に連携する複合領域科目群を設けることで、生命科学から環境科学に至る幅広い知識と技能を修得できるようにしています。

※副専攻プログラム

生命環境学科では、副専攻プログラムの配置により、所定の単位を修得することで副専攻プログラムの修了認定を行います。教職免許の中学・高校教諭一種免許状（理科）取得に関連する科目を配置しています。

2 学修成果の評価

授業外学修時間を十分確保した上で、コースカタログ・シラバスやルーブリックに配点割合をあらかじめ示した多面的な基準により、厳正な評価を行います。具体的には、例えば「知識・技能」は筆記試験や実技試験、「思考力・判断力・表現力」はレポート提出やプレゼンテーション、「主体性・協働性」は観察評価などのように、到達目標に応じた多様な方法を用いて総合的に評価します。学力の3要素のいずれを測る場面においても、ルーブリックを積極的に導入します。

学修成果については、コースカタログ・シラバスに提示した配点割合に従い、ディプロマ・ポリシーに示した「知識・技能」における専門に必要な理論と技能、「思考力・判断力・表現力」における情報収集、結果の分析と考察及び情報発信、「主体性・協働性」における課題解決に取り組む姿勢などについて、各科目において判断基準を設定した上で厳正に評価します。各科目における評価方法は、学期中や学期末に行う筆記試験、小テスト、課題や実験のレポート、実技試験、プレゼンテーション、能動的な学修における貢献度・主体性などを組み合わせることにより、多面的な判断基準に基づいて学修の到達度を評価します。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

1 基本理念

ライフサイエンスやバイオテクノロジー、持続可能な社会の構築、良好な生存環境の創出など「人々の生存」に関わる分野において、生命科学と環境科学に関する専門知識、新たな概念や技能を身に付けて活用すると共に、他者と協働しながら主体的に活動し、課題解決策を発信していく熱意と行動力を持った人材を求めます。

2 求める学生像

- ・ライフサイエンスやバイオテクノロジー、持続可能な社会の構築、良好な生存環境の創出など「人々の生存」に関わる分野に広い興味を持ち、自ら学ぶ意思と積極性を有している人
- ・生命科学と環境科学に関する新しい知識や技術を積極的に吸収し、科学技術の発展を通じて社会に貢献したい人
- ・医薬品・化粧品・食品、アグリバイオ、生殖科学、循環型材料・技術の開発、環境の分析や評価、環境修復や良好な環境の創出に関わる仕事に就きたいと考えている人
- ・生命環境分野における専門家を目指し、大学院に進学してより深い知識や高い技能を身に付け、グローバルに活躍したい人
- ・教員や公務員として専門知識や技能を活かした人材育成、住民福祉や生活環境の向上を目指す人
- ・実験や調査などを通じた研究によって自ら問題を解決し、新しい発見を目指す知的探求が好きな人
- ・柔軟な思考と実践力、科学を学ぶ者としての倫理観を身に付け、国際社会や地域が抱える多様な問題に対し果敢に立ち向かい解決しようとする人

3 入学者選抜の基本方針

入学者選抜にあたっては、学力検査、小論文、面接等により、多面的に資質や意欲を評価し、決定します。

○ 生命科学コース

【知識・技能】

- ・「生命機能の解明」や「生物資源の開発」に興味をもち、ライフサイエンスやバイオテクノロジーに関する新しい知識と先端技術の修得に積極的な人

【思考力・判断力・表現力】

- ・生命科学及び周辺分野の課題を見出し、専門知識・技術を生かして、それらの課題を分析して解決策を明らかにしようと努力する人

【主体性・協働性】

- ・生命科学分野の専門家を目指し、積極的に大学院に進学してより深い知識や高い技術を身につけようとする人
- ・医薬品・化粧品・食品・アグリバイオ・生殖科学など、人々の生存や繁栄に関わる分野の諸問題を、生命科学および関連分野の専門家と一緒に議論しながら解決したいと考えている人

○ 環境科学コース

【知識・技能】

- ・教員や公務員として専門知識や技能を活かした人材育成、住民福祉や生活環境の

向上を目指す人

- ・生命環境分野における専門家を目指し、大学院に進学してより深い知識や高い技能を身に付け、グローバルに活躍したい人
- ・環境科学に関する新しい知識や技術を積極的に吸収し、科学技術の発展を通じて社会に貢献したい人

【思考力・判断力・表現力】

- ・実験や調査などを通じた研究によって自ら問題を解決し、新しい発見を目指す知的探究が好きな人
- ・柔軟な思考と実践力、科学を学ぶ者としての倫理観を身に付け、国際社会や地域が抱える多様な問題に対し果敢に立ち向かい解決しようとする人

【主体性・協働性】

- ・持続可能な社会の構築、良好な生存環境の創出など「人々の生存」に関わる分野に広い興味を持ち、自ら学ぶ意思と積極性を有している人
- ・循環型材料・技術の開発、環境の分析や評価、環境修復や良好な環境の創出に関わる仕事に就きたいと考えている人

◎保健福祉学部

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

「課題探究型地域創生人材」の育成を目指すという全学的な基本理念のもと、保健福祉学部保健福祉学科では、地域が抱える保健・医療・福祉分野の諸課題に関心を持ち、主体的にその解決のための行動を起こすことによって持続可能な地域の発展に貢献できる、次の資質を有する学生に学位（学士（保健福祉学））を授与します。

【知識・技能】

- ・保健・医療・福祉分野についての高度な知識・技能を有している。
- ・多職種と連携しながら地域包括ケアシステムを推進できる総合的な実践能力を有している。

【思考力・判断力・表現力】

- ・保健・医療・福祉分野におけるプロフェッショナルな人材に相応しい高い倫理観及び豊かな人間性を有している。
- ・科学的探究心や創造性、柔軟性を備え、論理的に思考し客観的に判断できる能力を有している。

【主体性・協働性】

- ・生涯学び続ける向上心を持ち、地域社会に貢献する使命感を有している。
- ・専門職職業人として、支援対象者や地域住民、事業者、行政関係者等と協働できるコミュニケーション能力を有している。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

学士課程全体のカリキュラム・ポリシーのもと、保健福祉学部保健福祉学科では、保健・医療・福祉の「専門教育科目」と専門分野の枠を越えた「全学共通教育科目」について、大学4年間の学士課程を通じて学ぶことができる複合的な教育カリキュラムを提供しています。

全学共通教育では、大学生としての「学びの基礎・基盤」を固めるとともに、「豊かな教養」を身に付けます。専門教育では、学科を構成する5コースが連携を図りながら

臨床・実践教育に重点を置いており、その構成と特色は次のとおりです。

【構成】

「人間と社会生活の理解に関する科目」、「地域包括ケアシステムを発展させる科目」、「専門領域理解の基礎となる科目」、「専門領域特有の科目」で構成しています。

【特色】

- ・「地域包括ケアシステムを発展させる科目」では、5コース共通の講義科目・演習科目を1年次から4年次まで切れ目なく配置することにより、保健・医療・福祉の連携を学び、役割認識とチームアプローチの力を身に付けます。
- ・地域や社会での実践力を養うため、実習科目を配置することにより、実践現場における確かな判断力や主体性、創造性を身に付けます。小グループ教育を推進し、自主性と協働性を培うとともに、科学的思考力についても育みます。
- ・卒業研究または地域課題解決研究を全コース必修科目としています。

【学修成果の評価】

中間・期末テスト、レポートやプレゼンテーション、授業への積極的な姿勢のほか、専門領域特有の演習・実習科目では到達度についても評価項目に含みます。原則として複数の評価項目を用いるとともに、その配点割合を示し、学修成果について総合的に評価します。なお、各科目の具体的な評価方法については、コースカタログに詳述しています。

入学者受入れの方針（アドミSSION・ポリシー）

学士課程全体のアドミSSION・ポリシーのもと、保健福祉学部保健福祉学科には、地域が抱える保健・医療・福祉分野の諸問題に関心を持ち、主体的にその解決のための行動を起こすことによって持続可能な地域の発展に貢献できる「課題探究型地域創生人材」の育成を目標とし、高等学校で学ぶ基礎的知識を身に付けた上で、入学後も生涯にわたり主体的に学び続ける意欲がある、次のような人材を求めます。

【知識・技能】

- ・保健・医療・福祉分野についての専門知識を修得するための基礎学力を有している人

【思考力・判断力・表現力】

- ・高い倫理観と豊かな人間性を有している人
- ・問題解決に向けて臨機応変に対応できる理解力や判断力を有している人
- ・科学的思考力や探究心を持ち、豊かな創造性を有している人

【主体性・協働性】

- ・自ら主体的に学ぼうとする学修意欲を有している人
- ・多様性を尊重する視野を持ち、地域社会への貢献に関心を有している人
- ・円滑にチームワークを進めることができるコミュニケーション能力を身に付けている人

○看護学コース

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

保健福祉学部保健福祉学科のディプロマ・ポリシーを踏まえ、看護学の分野において、次の基準を満たした学生に学位を授与します。

【知識・技能】

- ・保健・医療・福祉分野の課題を総合的に把握し、看護実践できる知識・技能を有している。
- ・多職種と協働し、地域包括ケアシステムの推進に向け、実践できる能力を有している。

【思考力・判断力・表現力】

- ・生命への尊厳と人類愛に満ちた高い倫理観及び地域社会に貢献する使命感を基盤とした看護実践能力を有している。
- ・看護専門職として、対象と地域社会の健康課題と対策について科学的に探究する思考力と判断力を有している。
- ・看護の現場において、他者の気持ちや意見を傾聴し、自分の意見や考えを表現できるコミュニケーション能力を有している。

【主体性・協働性】

- ・看護専門職としてのリーダーシップを発揮し、常に学修し続け自己研鑽できる能力を有している。
- ・看護専門職としての役割と責任を理解し、組織的に解決する協働性を有している。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

保健福祉学部保健福祉学科のカリキュラム・ポリシーを踏まえた上で、看護学としての「専門教育科目」の構成と特色は次のとおりです。

【構成】

看護師・保健師・養護教諭の養成に必要な授業科目を配置し、基礎的な学修から段階を追って看護の専門性を深く学修する構成としています。1年次には、全学共通教育科目のほか、看護専門職の基礎的な資質を養い看護実践に必要となる内容を学修する科目を配置しています。2年次には、発達段階や健康課題に応じた医療や看護に関する科目とともに、臨地実習も配置しています。3年次には、看護の場面を想定した演習や臨地実習を配置しています。4年次には、看護学の統合を図るために臨地実習と看護統合演習、各自がテーマを設定する卒業研究または地域課題解決研究を配置しています。

【特色】

- ・看護師、保健師、養護教諭と他職種とのチームアプローチのあり方、連携方法を検討し、それぞれの役割をより深く理解するため、1～4年次に「地域包括ケアシステムを発展させる科目」を開講しています。
- ・大学における勉学の進め方の基本となる主体的、能動的学修に必要な技能の修得と、課題解決に向けた能力の涵養を図るための必修科目（大学基礎セミナー）を1年次に配置しています。
- ・小グループ単位で、参加型学修・行動型学修などの能動的な学修を促す手法を用いた授業を配置しています。
- ・発達段階と健康課題、更に場と状況の特性に応じた看護を学ぶ「看護学基礎科目」「看護学必修科目」「看護選択科目」を配置しています。
- ・看護学の知識と技術を臨床の場において適用し、理論と実践が統合できるように、教員と施設側指導者との協働指導体制を整えた臨地実習を配置しています。
- ・卒後の実践を想定した多重課題の解決方法やリーダーシップ、メンバーシップを学ぶ臨地実習を配置しています。
- ・卒業研究または地域課題解決研究は4年次に配置し、研究テーマを自ら設定し、一連の研究過程を実際に行うことで、科学的思考力や探究心を身に付けます。

【学修成果の評価】

中間・期末テスト、レポートやプレゼンテーション、授業への積極的な関わりなどを評価項目とします。原則として複数の評価項目を用いるとともに、その配点割合を示し、学修成果について総合的に評価します。なお、各科目の具体的な評価方法については、コースカタログに詳述しています。

入学受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

保健福祉学部保健福祉学科のアドミッション・ポリシーを踏まえ、看護の専門知識と技術の修得を目指す、次のような人材を求めます。

【知識・技能】

- ・保健・医療・福祉分野に関わる専門的知識・技能の修得に必要な基礎学力を有している人

【思考力・判断力・表現力】

- ・人類愛と倫理観を備えた豊かな人間性を有している人
- ・問題解決に向けて臨機応変に対応できる理解力や判断力を有している人
- ・科学的思考力や探究心を持ち、創造的に考え行動することができる人

【主体性・協働性】

- ・生命への尊厳を持ち、医療や健康に対する高い関心を有している人
- ・主体的に学ぼうとする意欲を有している人
- ・多様な価値観を受け入れる柔軟性とチームで活動するための協働性を有している人
- ・生涯にわたって専門性を発揮しようとする意欲と行動力を有している人
- ・国際社会も含めた広い視野を持ち、地域社会に貢献する意欲を有している人

入学受入れにあたっては、一般選抜では、大学入学共通テストと面接、学校推薦型選抜では、小論文と面接により決定します。このほか、社会人特別選抜では、小論文と面接により決定します。

○理学療法学コース

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

保健福祉学部保健福祉学科のディプロマ・ポリシーを踏まえ、理学療法学の分野において、次の基準を満たした学生に学位を授与します。

【知識・技能】

- ・運動療法、物理療法、日常生活指導等を実践できる理学療法士として必要な知識・技能を有している。
- ・理学療法の専門家として、多職種と連携し必要な理学療法を計画し、総合的に実践できる能力を有している。

【思考力・判断力・表現力】

- ・生命への尊厳と人類愛に満ちた高い倫理観、国際的な視野及び地域社会に貢献する使命感を持った上で、理学療法技術を提供できる能力を有している。
- ・保健・医療・福祉分野の情報に関心を持ち、理学療法士として建設的な議論ができ、自身の考えを適切に表現する能力を有している。
- ・自身の価値観に縛られることなく、生活課題が生じる背景や要因を支援する対象

者の立場で捉え、価値観や生活する環境・地域・文化の多様性を理解する態度を有している。

【主体性・協働性】

- ・チームアプローチ・地域包括ケアシステムの中における理学療法士としての役割と責任を理解し、的確に行動できる能力を有している。
- ・専門職職業人として活動する上で、必要かつ正しい情報を適切な方法で得る能力を有している。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

保健福祉学部保健福祉学科のカリキュラム・ポリシーを踏まえた上で、理学療法学としての「専門教育科目」の構成と特色は次のとおりです。

【構成】

理学療法士養成に必要な授業科目を必修科目とし、1年次から科目間のつながりを重視して学修する構成としています。1年次には、全学共通教育科目のほか、人体の理解を深める科目やリハビリテーションの概念などを学ぶ科目を配置しています。2年次には、人体の構造や機能について理解を深める科目に加え、基礎・評価・診断等に関わる理学療法学等を学ぶ科目とともに、1週間の臨床実習を配置しています。3年次には、障害・治療系・地域・生活系理学療法学等を学ぶ科目とともに、模擬患者演習を実施し、1週及び4週間の臨床実習を配置しています。4年次には、合計14週間（7週間で2回）の臨床実習とともに、各自がテーマを設定する卒業研究または地域課題解決研究を配置し、更には国家試験合格に向けての学修を行います。

【特色】

- ・理学療法士と多職種とのチームアプローチのあり方、連携方法を検討し、それぞれの役割をより深く理解するため、1～4年次に「地域包括ケアシステムを発展させる科目」を開講しています。
- ・大学における勉学の進め方の基本となる主体的、能動的学修に必要な技能の修得と、課題解決に向けた能力の涵養を図るための必修科目（大学基礎セミナー）を1年次に配置しています。
- ・小グループ単位で、参加型学修・行動型学修などの能動的な学修を促す手法を用いた授業を配置しています。
- ・5種類の臨床実習を配置することにより、理学療法の高度な知識と技術を身に付けます。
- ・特論科目には、臨床ニーズを見据えた柔軟性のある授業内容を配置しています。
- ・卒業研究または地域課題解決研究の配置は4年次ですが、3年次前期から指導教員の研究活動並びに上級生とともに研究の一連の流れを経験することで、科学的思考や探究心を身に付けます。

【学修成果の評価】

中間・期末テスト、レポートやプレゼンテーション、授業への積極的な関わりなどを評価項目とします。原則として複数の評価項目を用いるとともに、その配点割合を示し、学修成果について総合的に評価します。なお、各教育科目の具体的な評価方法については、コースカタログに詳述しています。

入学者受入れの方針（アドミSSION・ポリシー）

保健福祉学部保健福祉学科のアドミSSION・ポリシーを踏まえ、理学療法の専門知識と技術の修得を目指す、次のような人材を求めます。

【知識・技能】

- ・専門知識を修得するための基礎学力を有している人
- ・問題解決に向けて臨機応変に対応できる基礎学力・理解力を有している人

【思考力・判断力・表現力】

- ・高い倫理観・豊かな人間性・教養を持ち、自己表現することができる人
- ・科学的思考力や探究心を持ち、豊かな創造性を有している人
- ・論理的に思考し客観的に判断できる能力を有している人

【主体性・協働性】

- ・自ら主体的に学ぼうとする学修意欲を有している人
- ・多様な価値観を受け入れる柔軟性と協調性があり、チームで活動することができる人
- ・生涯にわたって専門性を発揮しようとする意欲と行動力を有している人
- ・国際社会も含めた広い視野を持ち、地域社会への貢献に関心を有している人
- ・円滑にチームワークを進めることができるコミュニケーション能力を身に付けている人

入学者選抜にあたっては、一般選抜では、大学入学共通テストと面接、学校推薦型選抜では、小論文と面接により決定します。このほか、社会人特別選抜では、小論文と面接により決定します。

○作業療法学コース

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

保健福祉学部保健福祉学科のディプロマ・ポリシーを踏まえ、作業療法学の分野において、次の基準を満たした学生に学位を授与します。

【知識・技能】

- ・人－作業－環境の関係及び作業と健康、幸福、人権との関係について理解し、エビデンス（根拠）に基づき作業療法を実践できる作業療法士として必要な知識と技能を有している。
- ・チームアプローチ・地域包括ケアシステムの中における作業療法士としての役割と責任を理解し、その中で対象者中心の作業療法プロセスを実践できる知識と技能を有している。

【思考力・判断力・表現力】

- ・生命への尊厳と人類愛に満ちた高い倫理観、国際的な視野及び地域社会に貢献する使命感を持った上で、作業療法技術を提供できる能力を有している。
- ・作業療法理論に基づいて対象者や地域の現状と課題を論理的に把握し、自身の意見や考えを適切に表現する能力を有している。

【主体性・協働性】

- ・作業療法の専門家として向上心を持ち、生涯にわたって学び続ける意欲と行動力を有している。
- ・作業療法士として、対象者とその家族、地域住民、事業者、行政関係者等と良好な関係を築き、協働できるコミュニケーション能力を有している。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

保健福祉学部保健福祉学科のカリキュラム・ポリシーを踏まえた上で、作業療法学としての「専門教育科目」の構成と特色は次のとおりです。

【構成】

作業療法士養成に必要な授業科目を必修科目とし、1年次から科目間のつながりを重視して学修する構成としています。1年次には、全学共通教育科目のほか、人間と社会生活の理解や作業療法学の概論等を学ぶ科目とともに、基礎的な臨床実習を配置しています。2年次には、専門領域の理解の基礎となる医学領域の科目を中心に配置するとともに、1年次の臨床実習をより発展させた基礎臨床実習を配置しています。3年次には、専門領域である作業療法学関連を中心に学ぶ科目とともに、病院や施設での評価臨床実習を配置しています。4年次には、総合臨床実習とともに、各自がテーマを設定する卒業研究または地域課題解決研究を配置し、更には国家試験合格に向けての学修を行います。

【特色】

- ・作業療法士と他職種とのチームアプローチのあり方、連携方法を検討し、それぞれの役割をより深く理解するため、1～4年次に「地域包括ケアシステムを発展させる科目」を開講しています。
- ・大学における勉学の進め方の基本となる主体的、能動的学修に必要な技能の修得と、課題解決に向けた能力の涵養を図るための必修科目（大学基礎セミナー）を1年次に配置しています。
- ・小グループ単位で、参加型学修・行動型学修などの能動的な学修を促す手法を用いた授業を配置しています。
- ・人－作業－環境の関係及び作業と健康、幸福、人権との関係を重視し、作業療法のリーズニング及び理論に基づいて総合的に理解できる専門知識と技術が修得できる授業を配置しています。
- ・作業療法士が幅広く活躍する場所での臨床実習を配置することにより、作業療法の実践力を能動的に身に付けます。
- ・小グループによるプロジェクト学修を配置することにより、地域課題を発見し、解決する力を身に付けます。
- ・卒業研究または地域課題解決研究は4年次に配置していますが、3年次前期に指導教員（ゼミ）が決定し、教員や上級生の指導を受けながら、各自が興味あるテーマの実験研究、調査研究や臨床研究に取り組みます。

【学修成果の評価】

中間・期末テスト、レポートやプレゼンテーション、授業への積極的な関わりなどを評価項目とします。原則として複数の評価項目を用いるとともに、その配点割合を示し、学修成果について総合的に評価します。なお、各教育科目の具体的な評価方法については、コースカタログに詳述しています。

入学受入れの方針（アドミSSION・ポリシー）

保健福祉学部保健福祉学科のアドミSSION・ポリシーを踏まえ、作業療法の専門知識と技術の修得を目指す、次のような人材を求めます。

【知識・技能】

- ・人の作業と健康の問題を理解し、問題解決に向けて臨機応変に対応できる基礎学力・理解力を有している人

【思考力・判断力・表現力】

- ・高い倫理観を持ち、多様な価値観を受け入れることができる柔軟性を有している人
- ・多面的に物事を捉え、自分の考えを的確に表現できる力を有している人
- ・作業療法に対する探究心を持ち、前向きに辛抱強く努力することができる力を有している人

【主体性・協働性】

- ・自ら主体的に学ぼうとする学修意欲を有し、生涯にわたって作業療法の専門性を発揮しようとする意欲と行動力を有している人
- ・多様性を尊重し、人の立場に立って物事を考えることができる想像力と共感性を有している人
- ・柔軟性と協調性を有し、チームで課題解決に向けて行動できるコミュニケーション力と実践力を有している人
- ・国際社会も含めた広い視野を持ち、地域社会への貢献に関心を有している人

入学者選抜にあたっては、一般選抜では、大学入学共通テストと面接、学校推薦型選抜では、小論文と面接により決定します。このほか、社会人特別選抜では、小論文と面接により決定します。

○コミュニケーション障害学コース

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

保健福祉学部保健福祉学科のディプロマ・ポリシーを踏まえ、コミュニケーション障害学の分野において、次の基準を満たした学生に学位を授与します。

【知識・技能】

- ・言語聴覚士として多様なコミュニケーション障害や、摂食嚥下障害に幅広く対応するために必要な知識・技能及び的確な情報を適切な方法で得る能力を有している。
- ・言語聴覚士の人的資源が不足している地域においても、幅広い年齢層や多様な障害に対応できる能力を有している。
- ・チームアプローチ・地域包括ケアシステムの中における言語聴覚士としての役割と責任を理解し、的確に行動できる実践能力を有している。

【思考力・判断力・表現力】

- ・生命への尊厳と人類愛に満ちた高い倫理観、国際的な視野及び地域社会に貢献する使命感を持った上で、言語聴覚療法を提供できる能力を有している。
- ・地域の保健・医療・福祉分野全般の情報に関心をもち、言語聴覚士という立場から建設的な議論ができ、自分の考えを適切に表現する能力を有している。
- ・臨床・研究活動を通じて得た知見を科学的に解釈し、伝える対象者に合わせた論理的な表現を用いて伝達できる能力を有している。

【主体性・協働性】

- ・自身の価値観に縛られることなく、支援する対象者や地域住民、事業者、行政関係者などの価値観や環境・地域・文化の多様性を理解し、協働できるコミュニケーション能力を有している。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

保健福祉学部保健福祉学科のカリキュラム・ポリシーを踏まえた上で、コミュニケーション障害学としての「専門教育科目」の構成と特色は次のとおりです。

【構成】

言語聴覚士養成に必要な授業科目を必修科目とし、「全学共通教育科目」「人間と社会生活の理解に関する科目」「地域包括ケアシステムを発展させる科目」「専門領域理解の基礎となる科目」「専門領域特有の科目」の各科目群に含まれる科目を1年次から科目間のつながりを重視して学修する構成としています。

【特色】

- ・言語聴覚士と他職種とのチームアプローチのあり方、連携方法を検討し、それぞれの役割をより深く理解するため、1～4年次に「地域包括ケアシステムを発展させる科目」を開講しています。この科目群では、他コースと共通で開講され、講義や演習を通して学びます。
- ・大学における勉学の進め方の基本となる主体的、能動的学修に必要な技能の修得と、課題解決に向けた能力の涵養を図るための必修科目（大学基礎セミナー）を1年次に配置しています。
- ・地域や社会での実践力を養うため、小グループ単位で、参加型学修・行動型学修などの能動的な学修を促す手法を用いた授業を配置することにより、自主性や的確な情報収集能力や表現力、科学的思考力及び他者と協働する態度を身に付けます。
- ・コミュニケーション障害を理解する前提として、地域を理解する科目や人間の行動や社会生活理解に関する科目を配置しています。
- ・人間の行動の中で最も複雑なコミュニケーション行動の障害や嚥下障害及びその支援について、専門知識と技術が修得できる授業内容としています。
- ・コミュニケーション障害や周辺の諸領域をテーマとした卒業研究または地域課題解決研究を4年次の必修科目としています。

【学修成果の評価】

中間・期末テスト、レポートやプレゼンテーション、授業への積極的な関わりなどを評価項目とします。原則として複数の評価項目を用いるとともに、その配点割合を示し、学修成果について総合的に評価します。なお、各教育科目の具体的な評価方法については、コースカタログに詳述しています。

入学受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

保健福祉学部保健福祉学科のアドミッション・ポリシーを踏まえ、コミュニケーション障害学の専門知識と技術の修得を目指す、次のような人材を求めます。

【知識・技能】

- ・コミュニケーション障害学とその周辺分野について専門的に学ぶために必要な、未知のことの学修に必要な基礎学力・理解力を有している人

【思考力・判断力・表現力】

- ・高い倫理観と豊かな人間性を有している人
- ・問題解決に向けて臨機応変に対応できる理解力や判断力を有している人
- ・科学的思考力や探究心を持ち、豊かな創造性を有している人

【主体性・協働性】

- ・コミュニケーション障害及び摂食嚥下機能とその障害について主体的に学ぼうとする強い意欲を有している人
- ・生涯にわたって専門性を発揮しようとする意欲と行動力を有している人
- ・多様な価値観を受け入れる柔軟性と協調性があり、チームで活動することができる人
- ・国際社会も含めた広い視野を持ち、地域社会への貢献に関心を有している人

- ・自身とは異なる立場（年齢、地域性、文化的背景など）を持つ人々に関わった経験があり、他者の立場や意見を尊重しながら、積極的・意欲的にコミュニケーションを取ることができる人

入学者選抜にあたっては、一般選抜では、大学入学共通テストと面接、学校推薦型選抜では、小論文と面接により決定します。このほか、社会人特別選抜では、小論文と面接により決定します。

○人間福祉学コース

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

保健福祉学部保健福祉学科のディプロマ・ポリシーを踏まえ、人間福祉学の分野において、次の基準を満たした学生に学位を授与します。

【知識・技能】

- ・社会福祉・精神保健福祉に関する諸課題を発見し解決するために必要な、高度な専門的知識と技能を有している。
- ・対人援助専門職として求められる、利用者、家族、自分自身、支援チーム、地域社会と向き合い働きかけることのできる、高いコミュニケーション能力を基盤としたソーシャルワーク実践力を有している。

【思考力・判断力・表現力】

- ・利用者、家族や地域社会が直面する課題の心理社会的諸要因を科学的に分析し、論理的に状況判断や支援行動に反映させる能力を有している。
- ・ソーシャルワーク専門職としての、高い倫理観と豊かな人間性を有している。

【主体性・協働性】

- ・多職種連携と調整によるチームアプローチにより、協調して地域包括ケアシステム構築を推進し地域共生社会の実現に貢献できる能力を有している。
- ・深く広い問題意識を基盤に、社会福祉士・精神保健福祉士としての成長発達を目指して、内省し自己研鑽し続ける意欲を有している。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

保健福祉学部保健福祉学科のカリキュラム・ポリシーを踏まえた上で、人間福祉学としての「専門教育科目」の構成と特色は次のとおりです。

【構成】

保健・医療の基礎知識と社会福祉専門職としての知識・技能・態度を修得できるよう、基礎から応用にわたる科目を体系的に学修する構成としています。1年次には、全学共通教育科目のほか、社会福祉の基礎と関連科目を配置することにより、ソーシャルワーカーとして求められる基礎的知識・技能を理解する力を身に付けます。2年次には、社会福祉の各専門領域に範囲を広げた科目とともに、1回目の現場実習を配置しています。3年次には、ソーシャルワーカーとして求められる知識と技術を更に深める科目を配置するとともに、各自の学問的関心と将来の方向を見定めながら、2回目の現場実習及び精神保健福祉士課程選択者は精神保健福祉実習も行い、卒業研究の準備にも取り組みます。4年次には、他職種との連携を図るために必要な知識や技術の修得を目指すとともに、各自がテーマを設定する卒業研究または地域課題研究を配置し、更には国家試験合格に向けての学修を行います。

【特色】

- ・社会福祉士・精神保健福祉士と他職種とのチームアプローチのあり方、連携方法を検討し、それぞれの役割をより深く理解するため、1～4年次に「地域包括ケアシステムを発展させる科目」を開講しています。
- ・大学における勉学の進め方の基本となる主体的、能動的学修に必要な技能の修得と、課題解決に向けた能力の涵養を図るための必修科目（大学基礎セミナー）を1年次に配置しています。
- ・小グループ単位で、参加型学修・行動型学修などの能動的な学修を促す手法を用いた授業を配置しています。
- ・地域生活課題を把握し、解決を図るために必要となる知識・技能を体系的に学修できる科目を配置しています。
- ・ソーシャルワーカーとして必要な専門知識・技能を修得するため、演習・実習科目を数多く配置しています。
- ・3年次には、少人数ゼミに分かれ、卒業研究または地域課題研究に向けた準備を進める総合演習を配置しています。4年次には、各自の学問的関心と将来の方向性を見定めながら各自がテーマを設定する研究を配置しています。

【学修成果の評価】

中間・期末テスト、レポートやプレゼンテーション、授業への積極的な関わりなどを評価項目とします。原則として複数の評価項目を用いるとともに、その配点割合を示し、学修成果について総合的に評価します。なお、各教育科目の具体的な評価方法については、コースカタログに詳述しています。

入学者受入れの方針（アドミSSION・ポリシー）

保健福祉学部保健福祉学科のアドミSSION・ポリシーを踏まえ、人間福祉の専門知識と技術の修得を目指す、次のような人材を求めます。

【知識・技能】

- ・人が社会生活を営む上で生じる様々な課題の解決に必要な専門知識や技術を修得するための基礎学力・理解力を有している人
- ・多様な価値観を受け入れる柔軟性と協調性があり、チームワークに必要なコミュニケーション能力を有している人

【思考力・判断力・表現力】

- ・生活問題や社会問題への関心、科学的思考力や探究心を持ち、豊かな創造性を有している人
- ・高い倫理観と豊かな人間性を基盤とした、誠実さを有している人
- ・問題解決に向けて臨機応変に対応するための、多面的かつ論理的な理解力、判断力、表現力を有している人

【主体性・協働性】

- ・自己形成に向けて、主体的に学び取り組もうとする学修意欲を有している人
- ・国際社会も含めた広い視野を持ち、地域社会への貢献に関心を有している人

入学者選抜にあたっては、一般選抜では、大学入学共通テストと総合問題及び面接、学校推薦型選抜では、小論文と面接により決定します。社会人特別選抜では、小論文と面接により決定します。